

交流人口拡大のための施策に関する アンケート結果

1

アンケートの概要

アンケート名	交流人口拡大のための施策に関するアンケート
実施目的	交流人口を増加させ地域経済を活性化させるために本市が今後取り組むべき施策について、市内事業者の考えや意向など幅広い意見を聴取し、仙台市交流人口拡大財源検討会議における検討の材料とする。
実施期間	令和2年1月20日から31日まで
対象	市内に拠点を置く、観光をはじめ交流人口拡大に関係する事業者
実施方法	電子申請システムを利用したオンラインアンケート
アンケート項目	1. 交流人口拡大のため仙台市が取り組むべき施策について 2. その他のご意見

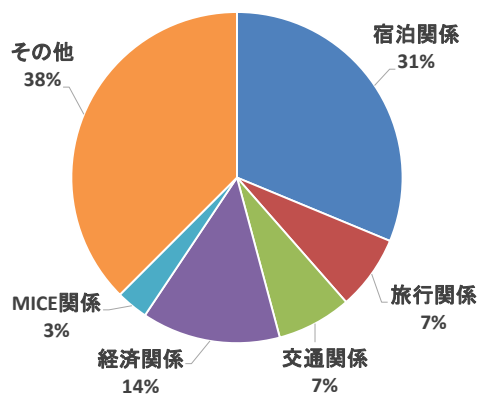
2

1. 回答者について

3

回答者(社)数および属性

宿泊関係	30
旅行関係	7
交通関係	7
経済関係	13
MICE関係	3
その他	36
合計	96



↓

【その他】

- | | | |
|--------------|------------|----------|
| ・市民有志の組織 | ・通信関係 | ・エネルギー関係 |
| ・建築、建設関係 | ・全国企業の仙台支店 | ・商社 |
| ・コンサル・シンクタンク | ・ベンチャー企業支援 | ・サービス業 |
| ・製造・販売業 | ・金融・保険業 | ・インフラ関連業 |
| ・レンタル・リース業 | ・医薬品卸売業 | ・学校法人 |
| | | など |

4

2. 寄せられたご意見について

※いただいたご意見に、類似する内容の集約、表現の統一、固有名詞の一般名詞化など、一部修正を加えて記載しています。

5

1. 仙台市が取り組むべき施策

(1)「方向性①年中訪れたくなる、魅力的なコンテンツの発掘・創出」に関連する意見

- ◆ 閑散期におけるコンテンツの充実
- ◆ フィルムコミッション以外にも、国内外のメディア全体へのコミッションの強化（訪問したくなる都市イメージの醸成）
- ◆ ご当地「名所・名物」の磨き上げとプロモーションの強化
- ◆ 宿泊業は1月～3月までは集客に苦戦するので、今年度の「ふっこう割」のように、他県の方々にアピールができる企画等の実施
- ◆ 光のページェントをもう少し華やかに。2019年はページェント開始が早く、宿泊客が前年より好調だった。開催期間も春節や成人式の時期まで伸ばしてはどうか(1月以降は土日限定など)
- ◆ 観光資源の開発・掘り起こし、および魅力アップの活動
- ◆ 里山の景観保護など、観光資源である自然の利用促進と保護
- ◆ 吊り橋、展望台、水辺まで降りて体感できるなど、磊々峡の見せ方の充実
- ◆ 秋保石の採掘場跡がたくさんあるので、その場所を芸術の展示やイベントに利用するなど、まち巡りの楽しさが増えるような仕掛けをたくさん設ける
- ◆ 映画撮影場所の提供。映画、時代劇などのロケーション、大規模セットの整備
- ◆ 仙台でしか体験できない誘客促進と消費促進に直接繋がる独自のキラーコンテンツの磨き上げ
- ◆ 富裕層、サブカルなどニッチ層に向けた、金額が高くても価値を見出し必ず欲しがる商品開発とプロモーション。特に伊達文化関係者や、サブカルの聖地的な関係者などの連携
- ◆ 観光施設の充実および既存観光地の魅力向上と新たな観光資源の創出
- ◆ 新たな物(特に箱物)をつくる時代は終わった。これまで培ってきた資源、材料をいかに活かすかが重要
- ◆ 仙台城の建設など、青葉城址の再構築。現状の交通を鑑みて、大手門ではなく大広間再建の検討。安土桃山文化に溢れる建築は来訪者増加に寄与できる
- ◆ 東日本大震災の教訓を県外の人に伝えるイベントの開催
- ◆ 魅力ある町並み等の創出支援による交流人口の拡大(町並み・町歩きスポットの整備、魅力ある人・体験・食などの磨き上げ)

6

1. 仙台市が取り組むべき施策

- ◆ 「都の杜」の企画における海外向けお土産の開発・販売
- ◆ 秋保の温泉文化を伝えていくため、天童のように年間を通して足湯が利用できる施設建設
- ◆ 「光のページェント」や「定禅寺ジャズフェス」、「みちのくよさこい」、「青葉まつり」は全国的な知名度がまったくない。もっとPRすべき
- ◆ 仙台城を復元し観光資源として再整備してほしい。通年を介して集客の目玉になる
- ◆ 仙台のキラコンテンツ「伊達政宗」を生かせていない。伊達武将隊などもローカル知名度。また、全国で誰も片倉小十郎や伊達成実を知らない
- ◆ 青葉城は全国がっかり名所のトップクラス。史跡指定等で難しいとは思いますが、天守閣計画はともかく、実際には二条城のような建物の礎石があるので、ぜひ復元すべき。原爆で被災した広島でも広島城が復元されている
- ◆ 仙台には誰もが訪れるランドマークが不足している。困難であっても、仙台城に何らかの施設を復元するべきではないか。例えば、懸造りは復元できないか
- ◆ 瑞巖寺や大崎八幡等の伊達家由来の観光地との連携も必要。おそらく、連携を知っている観光客は皆無に近い
- ◆ MICEの積極的な誘致・開催も大事だが、既存のイベントを磨き上げることも重要な施策ではないか
- ◆ もう一泊してもらうために、ナイトメニュー、ナイトマーケットの充実と商店街店舗の閉店時間の検討が必要
- ◆ リピーター客が見込める食に関するコンテンツの拡充(①宮城及び東北エリアの食文化の情報発信、②錦市場(京都)や朝市(八戸)やラーメン博物館(横浜)など、ワンストップで食を体験できる場の整備)
- ◆ 音楽や芸術等教養施設を充実させれば、周辺にその関連商店街ができる。さらに、そこにしかない、買えないものを創出すれば若者を中心とした交流人口が増え、活性化が図られる
- ◆ 仙台の象徴である伊達文化や映画ロケ地・アニメ聖地などの積極的活用。伊達政宗公や仙台を題材とした映画、アニメ等について、切り口を変えた視点から観光地として整備することで、新たな仙台の観光名所として設定できるのではないか。例えば、仙台城にかつて存在した懸け造りの復元や、るーぶるバスの増発やルートの多様化・見直し、従来にない新しい感覚の案内板を新設してはどうか

7

1. 仙台市が取り組むべき施策

(2)「方向性②ストレスフリーで旅行できる、快適な受入環境づくりの推進」に関連する意見

- ◆ アクセスの悪さから行きたい場所を諦める人が多数いるので、交通網の整備、アクセスの改善
- ◆ 観光インフラの継続(るーぶる仙台 仙台空港アクセス線など厳しいと思うが)
- ◆ 外国人旅行者、日本在住外国人勤務者対応の充実(案内表示や書類等のバイリンガル表示、グローバルビクトサイン、トイレの洋式化、観光情報サイトの多言語化など)
- ◆ バス・タクシー等の多言語対応と、対応を実施する事業者への補助
- ◆ 秋保温泉、作並温泉までの交通機関を充実
- ◆ 観光案内施設や、交流施設、地域の特産物の販売等ができる、地域の拠点施設の設置
- ◆ 観光客のみに限らず、自家用車を運転できない高齢者や買い物難民をも含めた「交通弱者」対策の手段(運行収入の確保)の視点で、既存資源の活用を要望する。例えば、空港シャトル等路線バスへの貨客混載による観光客の手荷物輸送(MaaSの導入も含めて)、スクールバス・旅館の送迎バスへの地域住民の混乗、「特区指定」による自動運転車の運行エリア拡大など
- ◆ 様々な分野におけるキャッシュレス決済の更なる普及・促進
- ◆ ベッドタウンへのアクセス利便性充実
- ◆ 仙台港を最大限に利用する
- ◆ 名取市まで仙台とし、仙台空港を仙台市として運用
- ◆ 観光案内や体験プログラムの紹介を積極的に行う拠点整備、及び情報発信の充実
- ◆ ハブ機能をそろえた運輸施設(仙台駅、仙台空港等)から生まれる宿泊需要の整備・確立
- ◆ 温泉施設等への誘導
- ◆ 夏祭り時期の訪日外国人旅行者受入整備
- ◆ 地下鉄のエスカレーターなど、バリアフリー化の推進
- ◆ 地下鉄を観光スポットや仙台港、北部工業団地まで延伸するなど、将来を見据えた交通網構築検討
- ◆ 各関係事業者(法人・個人問わず)へのweb発信・整備に対する支援(補助金・情報など)
- ◆ 地元目線も大切な一方で、近く仙台での観光・滞在を検討される方にも充分に響くような、よりデジタル化したシティセールスの在り方を打ち出し、交流人口拡大を牽引してほしい

8

1. 仙台市が取り組むべき施策

- ◆ DUTY FREEの充実
- ◆ 市内フリーWi-Fiエリアの拡充
- ◆ ホテルなど宿泊施設を増やす(ラグジュアリーホテルの誘致も含む)
- ◆ 仙台駅前に屋内型公共交通ターミナルを建設。分散しているバスのりばと観光案内施設を集約して充実を図る。バス待機施設機能も備え、回送を削減することで効率的な運行と便数の確保、中心部道路渋滞の緩和に寄与する
- ◆ 二次交通への補助金等を含めた拡充(秋保・作並地域の弱点補完施策。定期運行となると法的な問題もあるが必要)
- ◆ 交通インフラ整備による市内中心部の渋滞解消と仙台市から宮城県等全体へのアクセスの充実
- ◆ 一流シティホテル(ナショナル・インターナショナル)の誘致。MICEに訪れるクラスの外国人は普段利用しているチェーンを利用する機会が多い。同程度の政令指定都市と比較しても立ち遅れている
- ◆ 仙台から各県に移動する際のアクセス案内が少ない
- ◆ 仙台駅や空港からの二次交通のサービス性向上。例えば、レンタル用の小型車両やパーソナルモビリティ(自転車含め)の配置とMYROUTE(福岡市)のようなアプリケーションによるアベイラビリティの向上
- ◆ 仙台空港の稼働時間拡大と、空港へのアクセス充実
- ◆ 仙台のゲートウェイ機能充実。仙台駅から各エリアまで、点から線、線から面へと賑わいが拡大すれば、観光目的の来訪者が仙台に抱く「わくわく感」が増大してリピーターが増える

9

1. 仙台市が取り組むべき施策

(3)「方向性③マーケティングを重視した、国内外への効果的なプロモーション」に関連する意見

- ◆ 世代や国・地域、所得層なターゲットを明確にしたプロモーションの実施
- ◆ 仙台空港の充実と活性化、特に国内線便数の増便、発着地域の充実を図る
- ◆ 仙台までの飛行時間や富裕層など、タイよりも台湾にPRやプロモーションを集中すべき
- ◆ 修学旅行誘致
- ◆ 仙台市内への国内観光客(特に東京、西日本)の取り込み
- ◆ 外資企業への仙台市プロモーション(イベント、食、交通面)強化
- ◆ 仙台空港国際路線維持のため、アウトバウンド施策支援
- ◆ 仙台市及び東北地区の魅力を伝えるCMの作成
- ◆ 観光等の情報を国内のみならず、複数言語で週1回程度SNSで発信する。ニッチな情報は飽きられないので、あるとよい
- ◆ 仙台がつまらないと言われないため、国内外向けのプロモーションや案内物(パンフやWEB)の作成
- ◆ 仙台市だけでなく、宮城県や他の自治体を巻き込んだキャンペーンの強化
- ◆ インバウンドとアウトバウンドの双方の振興(ツーウェイツーリズムの強化)と、学問としての確立・品位をもつことが必要
- ◆ クルーズ船誘致による、富裕外国人観光客の受け入れ
- ◆ インバウンドも大切だが、タイや台湾などへのアウトバウンドも必須。パスポートを取得するにあたり助成金を出すなど、若い人たちが他の国を訪問し見聞を広げることが必要
- ◆ 国内旅行者(関西・関東)の宿泊誘致、意識喚起。宿泊実績が伸びてきている関東、これからの市場の関西・中部地域への誘致施策は必要
- ◆ インバウンド客へのアンケートの実施(国別、年代別、性別、スポット、ルートの検証、仙台に何を求めているのかと、現在行っている施策とマッチングしているのかの検証)

10

1. 仙台市が取り組むべき施策

- ◆ 仙台市職員全員のパスポート取得
- ◆ 既存のコンテンツのPR不足。例えば、大崎八幡宮から北山にかけての寺社などは、外国人が迷いながら歩いているのをたまに見かける。日本人があまり注目していないコンテンツについて、外国人のインフルエンサーにSNSで発信してもらおうといったプロモーションの余地は大きいのではないかと
- ◆ 若い世代や海外の方々がどのように情報を得ているのかを常に調査し、それに合わせた手法を取った方が良い
- ◆ 海外のみならず国内他地域からの旅行者の呼び込みにも再注力すべき。彼らのネット発信が海外からの訪問者を呼び込む
- ◆ 県内、東北、関東、それ以外の国内、国外などターゲット別の戦略策定
- ◆ 各メディアにより、国内、海外ともに仙台の魅力を最大限アピールし、仙台市の認知度を上げる

11

1. 仙台市が取り組むべき施策

(4)「方向性④MICE参加者やビジネス客など、観光目的以外の旅行者向け施策の充実」に関連する意見

- ◆ MICE誘致の強化
- ◆ 大学発ベンチャー企業、地域資源を活用し成長を志向する地場企業を集中的に支援し、成長を促進すること。成長企業は雇用を生み、必然的に交流人口も増加する
- ◆ MICE誘致の観点から、ヒルトン福岡やロイトン札幌のような1,000人規模で着席できるコンベンションホールを有するシティホテルの誘致
- ◆ 産学公連携による新産業・新事業の創出
- ◆ 国際センターに隣接するホテルの設置(風致地区基準の緩和)
- ◆ 国際会議場建設、国際会議誘致。現在の国際センターでは中途半端。駐車場の確保も出来ず、収容人員も少ない
- ◆ バンケットホールの充実が必要。少なくとも「新年の集い」クラスのバンケットを余裕をもって開催できる場所が必要。当然、駐車場の確保が必要となる
- ◆ 国際センター横の駐車場には低層型高級ホテルを誘致してはどうか。昨今京都でオープンしている高級ホテルは可能ではないか。広瀬川河畔の景色と合わせて価値があり、そこに東北大学への研究者や学会の際のハイクラスの方々を案内することが可能
- ◆ 追廻住宅跡もコンベンションには最適。現在の国際センターとの融合も可能で、仙台駅からのアクセスを考えると、右折なしで入れるのは重要
- ◆ 国際的な会議・イベントの誘致。仙台は、自然豊かで住みたい都市ランキングの上位にランクしている。国際センターに代表される物的資産も充実しており、仙台空港との連携も含めて地下鉄・バスの交通利便性も良いが、国際的な会議・イベントの開催が少ないのは、情報発信が足りないからと考える。良好な環境と食の豊かさ、首都圏からも近く利便性の高いコンパクト都市であることを誘致活動の柱として、机上、書面に限らず積極的に国内外の関係各所へ出向いて決定権のある部署に直接アピールすることが重要である

12

1. 仙台市が取り組むべき施策

(5)「方向性⑤県内・東北への旅行者の周遊促進を図る、東北ゲートウェイ機能の強化」に関連する意見

- ◆ 東北全体での観光情報、魅力の発信
- ◆ 東北連携を謳う際の仙台ステイのハブ化の促進と支援
- ◆ 東北へ来た方が、目的県以外の他県にも立ち寄っていく気持ちになってもらえるように、他県での宮城・仙台のプロモーション
- ◆ むすび丸などの東北ご当地キャラをより前面に押し出したプロモーション
- ◆ バスタ新宿のような高速バスターミナルの整備
- ◆ 東北他自治体との連携による域内周遊コースの整備とプロモーション
- ◆ 仙台市は紛れもない東北地方の中心都市であり、東北全体の交流人口の増加の恩恵は何らかの形で仙台市に還元されるものと考えられる。放射光施設を核にした他都市との差別化による強みの強化など仙台の魅力アップと合わせ、東北地方各地の連携についてリーダーシップを発揮してほしい
- ◆ 東北の中心的存在である仙台をもっとPRしてもらいたい。東北には素晴らしいものが沢山あるので、もっと外国人の方にも知ってほしい。そのPRが不足している
- ◆ 仙台市は東北の玄関口としてポータル機能を果たしつつ、東北全体が恩恵を受けるよう、宮城県内の他地域や他県との連携により、東北内への送客機能強化に向け取り組むべき
- ◆ 東北連携によって、多種多様な魅力ある地域であるとPRして興味を持っていただき、東北の中心として仙台市を機能させる

13

1. 仙台市が取り組むべき施策

(6)「方向性⑥持続的な交流人口拡大施策の実現に向けた、官民連携による推進体制の確立」に関連する意見

- ◆ 企業・団体誘致はもちろん、既存地元企業・団体への積極支援をテコとしての交流人口拡大の活性化
- ◆ 観光交流拡大がどれだけ地域の活性化(特に経済)につながるかのシミュレーション
- ◆ 各既存店舗と新しい店舗をつなぐプラットフォームを作り、さらにはホテルや旅館も巻き込むこと
- ◆ 主目標を宿泊者数拡大とし、目標数値とともに明確に掲げ、そのための支援策を実施
- ◆ 観光需要に対しての市民の意識向上
- ◆ スーパーグローバル大学創成支援に採択された東北大学との連携強化と、留学生を定期的に会議に招聘し真の国際視点を取り入れたインバウンド対応施策の構築
- ◆ マーケティングの共有による共同企画
- ◆ 地域ブランド構築に向けた事業者を巻き込んだ取り組み
- ◆ 東北、宮城、仙台在住の観光人材の育成(他地域で実績ありという振れ込みで来ている観光人材が期待倒れだったことがあり、地域にあった人材が必要)
- ◆ 観光に関わる施策については民間と協議をしながら進めてほしい。宮城県もそうだが、宮城県内は行政主導型の施策が多すぎると感じる。「観光県(もしくは市)」である山形や福島では民間の力を最大限取り入れていると感じている
- ◆ 県外の人が仙台市へ遊びに来た時、地元の人に聞いても、おすすめの見学スポットを答えられる人が少ない。小中学校のうちから、地元愛を育む教育を行うべき
- ◆ お金の出し入れだけの観光協会。必要なところが地域に根差していないのが現実。検証してほしい
- ◆ 他業種からの交流人口ビジネスへの参入・進出支援(仙台市交流人口ビジネス活性化戦略における重点プロジェクト3関連)。例えば、①地域一体となった取組みとなるよう、交流人口拡大によるインセンティブ理解に向けた、住民および事業者に対する啓発活動の実施、②既存の観光業関連事業者以外の事業者も含めた、交流人口ビジネス拡大に向けた商談会(ビジネスマッチング)等の開催によるきっかけ作り、③観光・交流人口に関するデータの取得基盤整備とそのデータ活用による、より戦略的な施策展開(仙台・東北のファン作り等)、④他業種からの交流人口ビジネス参入を促すための、上記データ活用による経済規模等の見える化(開示)

14

1. 仙台市が取り組むべき施策

- ◆ 2021年はデスティネーションキャンペーンがあり、本来であれば宿泊客数が伸びる期間。検証する際には、初年度実績について検討が必要
- ◆ 観光施策の多角的な展開も必要かも知れないが、施策の絞り込み、見直しは必要
- ◆ DMO関連への支出、補助金の見直し整理。特にDMO関連については否定的な見方をしている方は多い

15

1. 仙台市が取り組むべき施策

(7) その他(どのカテゴリにも分類されないもの)

- ◆ 宿泊税を導入しないこと
- ◆ 農業の活性化と6次産業の支援が特産物の産出をつなぐ支援
- ◆ 目先の事だけでなく10年先を見据えて長期的観光施策を考えてほしい
- ◆ 移住の誘致
- ◆ 日本人が観光したい、住みたい街を仙台市として目指すこと。もし日本人が住みたい、観光したい都市ということが顕著にみられ、達成されたなら、そのことを海外に発信すれば外国人も来仙する。
- ◆ 東日本大震災から約10年となり復興に目途がついたとみている被災地外の人々への正確な現在地訴求が必要。実際はまだ目途等ついていない現実があること、風化することと現地を訪れることは比例していることを訴え続けなければならない
- ◆ 仙台市が取り組むべきは何もしないこと。宿泊税等で事業者や仙台市民の手間をかけず、予算がないなら何もしないことが望ましい。税金が欲しいならIR誘致に手を上げるべき
- ◆ 公共施設(駅・公園・体育館)及び民間(楽天イーグルス、ペガルタ仙台)への活用
- ◆ 「杜の都」を謳いながら街中から緑が減少している(他政令指定都市と比して来訪時の視覚的な違いが無くなってきている)。青葉通り、定禅寺通りを設計したように、現時点ではなく数十年後の緑あふれる街づくりの為に、今から設計を見直し街路樹に対する予算設定を行うべきである
- ◆ 仙台駅前再開発のリーダーシップ及び早期促進
- ◆ JR仙石線車両の近代化
- ◆ 住宅環境、教育環境が良いことのアピール
- ◆ 仙台は雪国と思っている人も多いので、もっと住みやすさをアピール
- ◆ テナントビルの空室率が依然として高い状況にあるため、空室率解消のための誘致施策や補助金などの構築が必要
- ◆ 子どもが遊べる室内施設の増設
- ◆ 東京集中阻止はハードルが高い。2拠点居住促進に向けた生活スタイルの提案など、東京との時間的な近さを活かした新たな工夫が一層必要

16

1. 仙台市が取り組むべき施策

- ◆ 定禅寺通りなど豊富な公園空間の機能見直しと強化(例えば:緑地空間の拡大、それら空間での稼働化、雨水吸収など防災機能のアピールなど)
- ◆ オフィスビルの拡充。現在の特区の容積率緩和条件をもう少し引き下げ、民間の再開発意欲を刺激すべき。現在の特区では1物件当たりの面積が広すぎる。また、オフィスビルを充実させることで東京からバックオフィス(間接部門)を仙台に誘致する。交流人口の拡大と仙台市からの若年流出の歯止めになる
- ◆ 宿泊税導入により利用冷え込みが考えられる県内利用客への実弾によるキャンペーン実施(短期的施策だが、一番効果が見込める。県内容に限定するのか、閑散期に実施するのかは要検討)
- ◆ 宿泊税導入によるインバウンド客の宿泊者数減の状況は想定できないが、何かしらの補助は必要になるかも知れず、その対策の検討が必要
- ◆ 企業誘致に向けたテナントビルの供給(都心再構築プロジェクトにおける仙台市としての更なる協力(特に補助金制度等の更なる充実))
- ◆ 企業や学生の海外進出支援制度の充実(自ら外に出ていき、仙台、宮城、東北をアピール)
- ◆ せんだい都心再構築プロジェクトの推進により、企業立地を促進してビジネス目的の交流人口拡大を図るとともに、観光目的の交流人口拡大のために都心再構築エリアごとに来訪者が散策しやすくなる地区特性を生かした魅力ある街並みを整備して核となる集客スポットを設定する

17

2. その他のご意見

《宿泊税に関するご意見》

- ◆ 宿泊税はやめてほしい。仙台市内だけで100以上の施設があり、これからも開業が相次いでいる状況で、特に平日の低価格競争が激しく、100円単位の争いになっている。そこに宿泊税とは、現場を何も知らない机上の話ではないか。競争の中で最悪現価格の施設利益からの持ち出しになり、収益が減る可能性もあり、それによって従業員の給料、ひいては税収に影響が出ると思う。また、なぜ宿泊施設だけなのか。手取り早く徴収できるからか。不公平である。よく考えていただきたい。
- ◆ 新たな宿泊税導入は宿泊者の多くが仙台市民である事(仙台市のインフラを他の地域の人達が利用するので、宿泊税を課税が本来の趣旨)や入湯税の他に課税されると事務処理が煩雑になるため反対である。宿泊税を創設するのであれば、入湯税の税額を引き上げ(法的に税額が決まっていなくて)で対応し行政の導入経費を削減できる。県との二重課税は絶対反対、福岡県を参考にすべき。
- ◆ 「県税・市税の二重課税」に反対。
- ◆ 宿泊税については反対である。仙台市街地のホテルが増えている中で値下げ競争となる可能性があり、業界自体の低迷や従業員の労働環境の悪化・従業員の確保の困難等が懸念される。そうなると国が進める「働き方改革」への対応も困難となるのではないか。
- ◆ 宿泊税の用途が入湯税のようにやむやみにならないよう、財源活用の明確化とオープン化を行うべき。
- ◆ 宿泊税が提起され、泊まった人や旅館・ホテル業のみが交流人口拡大のための税負担を強いられる形になっているが、交流人口拡大で恩恵を受ける交通事業者、飲食事業者、物品販売業者など幅広く負担するべきであるとする。交流人口拡大財源を税によって賄わなければならない場合、全事業者の売り上げに応じて、税負担をすべきであると思う。
- ◆ 宿泊税の導入は反対。交流人口拡大の為の財源検討かと思うが、仮に、宿泊税が宮城県との二重課税になってしまったら、客が宮城県・仙台市の宿泊施設に予約する率が低くなり、宮城・仙台への客離れが逆に進むと思う。海外のエージェントからも、そのような声があがっている。また、課税された場合の宿泊施設側の事務処理も膨大になると推察される。ご検討いただきたい。
- ◆ 県以外に仙台市でも宿泊税を取るのはいらない。東北に来て仙台、宮城に宿泊しなくなる。

18

2. 其他のご意見

- ◆ 宿泊税には絶対反対である。宿泊税を徴収している東京、大阪、京都等は大都市でインバウンドで平日も宿泊稼働率が異常に高く市民生活にも支障があり、クールダウンさせたい地域である。宮城・仙台は現在そのような状態ではない。宿泊サイトで平日予約検索すれば料金、空室等でわかる事。そのような状況下で宿泊税を導入すれば確実に観光客減少や観光客誘致に非常に不利となり、かえって減収になる。宿泊税を導入しない事が増収につながる。
- ◆ 仙台市交流人口拡大財源検討会議へ宿泊税について意見したい。議論の時間、周知が足りない、宿泊産業だけが観光税を負担するのか等の意見は委員の皆様でも把握されていると思う。私は現在日本旅館協会の一員でありその立場で意見したい。先週、上京し都内の日本旅館協会内において、ホテル旅館の業務オペレーションを構築する国内最大手メーカーの代表と面談した。そこではっきり、現状において宿泊税等に対応するシステム開発は行わないと言われた。自治体によって様々なので、対応してもきりが無いという事だった。つまり、徴収する旅館側は、現地での決済不要のプランを販売しても、フロントで徴収することになり、業務の負担は増す一方である。京都新聞の記事によると、京都では民泊も含め宿泊税導入以降から厳しい数字になっているようだがこの点についてもどのように考えているのを知りたい。
- ◆ 宿泊税を導入する場合、その活用に当たっては、より宿泊客増に結びつきやすい施策に重点を置くことを明確化する(できれば用途を具体化することがベター)など、宿泊事業者の不安感に配慮した対応が望まれる。
- ◆ 宿泊税を導入するなら入湯税を減額せよという声は多い。減額が難しいようであれば、もっと「湯」に関連した分野での利用を。例えば環境配慮のため、ヒ素除去施設を含んだ排水施設の建設運用、パイプ設置など。
- ◆ キャッシュレス化が進み、現金での支払いがどんどん減っている状況。県との協議になると思うが、宿泊税・入湯税の手数料分を宿泊施設で負担しなければならない。
- ◆ 修学旅行の宿泊料も、一泊の規定金額内に抑える形が普通。宿泊税導入となれば、他県からの修学旅行の受け入れは減ると思う。

19

2. 其他のご意見

《その他ご意見》

- ◆ 緑と自然景観と清流そして里山の景観は、市民の憩いの場・市民の水道水の源泉であり、緑地や農地は、自然のダムとしての機能・水害等災害や環境激変の防止・都市の温暖化防止・CO2の削減など多様な機能を持つ。仙台市西部地区の自然に対する保全及び利用に関して、地区に対してのリスペクトの概念を改めて考え、地域に対してのSDGsの支援対策を長期的な展望に立って、施策を行うべき。このままではあと数年で、里山の景観はソーラー畑と、資材置き場の風景になってしまう。この対策は今すぐ行われなければ、数年で中心部だけの通行観光になってしまう。もともと泉西部地区は、仙台市民のグリーンツーリズムの里となっており、以前より市民の利用が多少ある地域ではあったが、旅行や観光に対する意識はほとんどなかった地域ではある。この観光ブームを生かして、地域の活性化を図るしかないと思う。最後に、どうか根白石地区を見捨てないでいただきたい。
- ◆ 磊々峡の入り口デザインが貧相なのが残念。秋保大滝の遊歩道も、姉滝の見せ方も、警司岩の展望台も素材が素晴らしいのに、工夫やデザインがされていない。もっと良い空間を増やし、同時に交流の為にソフトを開発し、誰でも楽しく交流できることを目指したい。
- ◆ 弊社は現在東北プロジェクトが多く、世界各国から仙台を通過して東北各地へ訪問する。仙台オフィスがあるため、宿泊(現地ホテルがないため)、会議、飲み会などを設定するが、仙台の魅力のアピールを強化してもらえると、さらに仙台に寄ってもらうことが可能になる。
- ◆ 市役所書類はすべて英語表記だと助かる。
- ◆ 県と進めている(勿論、市単独でも可)文化施設の移転は、仙台駅前の商業施設跡地あたりを活用してはどうか。海外の例では、駅の真ん前に、美術館やコンサートホール等が設置されているケースが多々あったと記憶している。芸術・文化都市を目指し、交流人口拡大を図ってはどうか。
- ◆ 交流人口拡大と銘打って旅行会社や仙台観光国際協会に丸投げするのではないか。
- ◆ 仙台市と宮城県との連携がなっていない。
- ◆ 街づくり議論が市役所&定禅寺通りを中心になされることが多いが、現在の仙台経済を鑑みるに、駅前交流人口の増加、仙台駅東口～宮城野原地区の発展、市立病院跡地への東北学院大学進出など、仙台駅を中心に各種議論がなされるべきではないか。商店街に対して気を使い過ぎている感があり、既存を見るのではなく、30年後の街を見据えて各種検討をしてもらいたい。

20

2. その他のご意見

- ◆ 交通網の整備により首都圏のビジネス関係者に関しては必ずしも交流が宿泊に結び付かないケースも増えていると感じられる。
- ◆ 仙台は同じ支店経済の福岡や札幌に比べ、丘に住宅地が広がっていることと自動車保有率が高いことが特徴と思われる。泉区や太白区の一部では高齢化が著しく、高齢化がモザイク状に広がり、市の政策として、荒町のような新しい街づくりと、泉区のような住宅地の高齢化対応も同時に展開しなければならぬ難しさがあると思う。東北大学等の機能を活かし、神奈川などで展開される「未病」政策などの展開と、そうした環境を生かしたベンチャー起業を期待したい。
- ◆ 仙台市には、物事を実現する方法を考えるより、出来ない理由を考える癖を直してもらいたい。確かに役所や仕事してみれば「何か新しいこと＝仕事量の増加」となるのでやりたくないのだろうと想像できるが、こういったアンケートを取るのであれば、出来ない理由はなしにしてほしい。普段から社内でも出来ない理由はいらないから、出来るやり方を考えて実行してほしいと言っている。出来ない理由を出して何もしなければ退化していくだけである。チャレンジしなければ失敗はないわけで、減点を嫌がる行政ではチャレンジしたくないのかもしれないが、その姿勢では他の都市においていかれてしまう。
- ◆ 仙台の方々には他の街が何をしているのかを知らなすぎる。仕事で全国を回っていると、それぞれの都市の危機感とチャレンジを感じる。各地のチャレンジを仙台市は分かっているのかと思う。おそらく、実際に見ていないだろうということは想像に難しくない。また、行政だけではなく、仙台の方はベースが豊かなせいか、のんびりしていてハングリー精神に乏しく、それでいて妙なプライドが高いと思う。
- ◆ 地元の学校から仙台市職員という方も多く、優秀な学校を出ているのにもかかわらず、事なかれという感じが多い。これからは他の都市との競争になることをよく理解し、積極的に実行してほしい。
- ◆ 顧客目線での行政運営を心掛けてほしいと思う。交流人口も住民も大事なお客様。お客様に満足してもらえなければ、リピーターも来ないし、住民も増えない。自分が顧客だったらどう感じるか、どうしてほしいかを常に考えることが必要。
- ◆ 市長や市役所幹部と、有力企業はじめ有識者と意見交換する機会を増やして頂きたい。
- ◆ 交流人口の増加に向けて金融機関もお手伝いできることが多々あると思う。今後、ぜひとも議論等をさせていただける機会を与えていただきたい。
- ◆ 「東北圏社会経済白書2018年度」(<https://www.kasseiken.jp/pdf/library/guide/30fy-chosa-02-02.pdf>)において、観光の基幹産業化をテーマに、仙台市のほか他地域の先進事例等についてレポートを取り纏めているのでご参照願う。